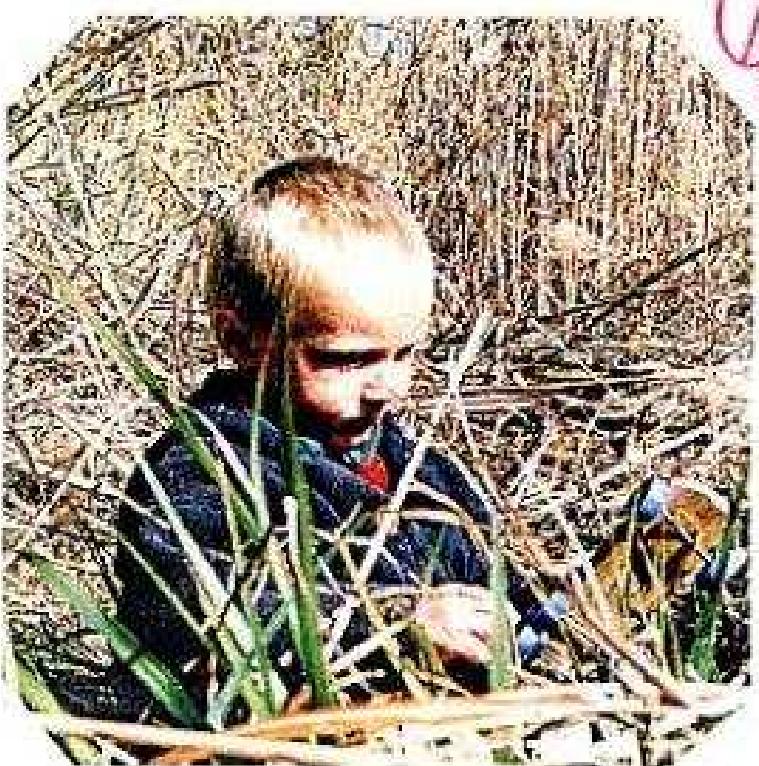


五 新聞

05.12. NO103
発行 市岡日出夫
監修 菊代秀美生・木割大雄先生

は ま る メリリ芋



十一月になると祖谷にも霜がおり、水が張つたりと冬の知らせが届く。それとも、県道や国道をいには紅葉キレイ本ヶまど主に残つてあります。

そこで羊ひとまとと茅刈りがはじまり。今年も十八日スタート。計画では、平替にも「らいあり」の陰風と葺き替えるところになります。かまた一年先にやはりどうで。

それとも茅刈りは順調にはかじつている。今年は、ドイツ、アメリカ二ヶ国から八人十人といふ国際的茅刈りで、英語やドイツ語が飛び交うます。株式会社事務部ラニニアアンドラウンドが運営する。毎回、大手とむじこさんとくに、元々に山を登り、幕の甲を歩き、まめこしまや、特に、べうくんのお家に入りは一日の最後の仕事の所で、ヨシノ岩山といふ架橋を使う。第一回はこじびます。



大賞 実祖岩いの俳句会＆コンサート 吊橋の真中は挂めざ秋の黒茶



懇親会の後藤さんの全面的な発表のあとには、初めての「奥祖谷」いやしの能句会とコンサートがありました。伴奏には、講師として、岩城久裕先生が登場され、また、岩城久裕先生は、上々の出来だったとおもります。自然に恵まれた環境の中での能句会は、上々の出来だったとおもります。その後には、地図町から参加して、早川さんへの句が選ばれました。

滑落橋の東岸は、揺れる木の聲の句がアツマリ、とくに名先生よりの選び三首。「あそこにもほらあそこにも冬の色」、「紅葉瓊極樂」と思ふ奈落のリーブ。細葉掛けし妻高寒つ祖谷どうか。うれ歎歎乎せのコンサート、楽しめました。